

## 「開発」「製造」「販売」をそれぞれ活性化せよう！

桜も散り、新緑の季節の5月。  
「そろそろ一年も折り返し地点に近づいた」と思うのは  
せつかな性格がゆえなのであろうか。

当たり前に聞こえるか知れないが、我々は小さいながらも「開発」「製造」「販売」と事業を一気通貫でやってきている。

これも当たり前の話であるが、需要が無ければそもそもビジネスは成立しない。誰も欲しがらなければ、どんなに良い製品であつたとしても、またどんなに安くたつてモノやサービスは絶対に売れない。

そこで、セルドロン。そもそもセルドロンとは

「固液混合体を、瞬間性（養生期間不要）」と

汎用性（対象を有機・無機を問わない）」と

低環境負荷性（中性域と生分解性）、を以て、流動性を低下させる」ことが最大の特徴である。

この特徴を活かして泥やスラッジに何らかの加工や施工を施すところに、我々のビジネスチャンスは潜んでいるのである。では、泥やスラッジへの加工・施工を我々が出来るかと問われれば、「出来ない」と即答せざるを得ない。つまり、我々はセルドロンを使用する側ではないつまり仮に加工・施工をしようとするならば建設業者が特殊作業会社になる、という事を意味しており、事実上実現不可能である。

このような現実的な観点から、施工業者、つまりゼネコンと言われる大手建設業の方々を中心とした工法協会を設立すべく進めている。加工・施工には国交省や環境省をはじめとした政府機関や場合によっては各自治体の基準があり、加工・施工のプロが集まったこの工法協会を設立の上、最適な資格、認定制度の獲得をして頂くことを考えている。こうすることで、結果的に我々にとつての「販売」は、「材工（材料+加工・施工）」を担う工法協会への販売に大きな流れを作ることが出来る。また、「販売」としての協会の立ち位置と、後述の「製造」の間は地域毎の特徴や背景を把握している地場商社や問屋の販売網が不可欠で、こちらも順次整備して頂いているところである。

一方、「製造」であるがご承知の通り、東京都板橋区と福島県二本松市内に自社製造現場を構えているが、この度、我々の資本ではなく、新たに愛媛県松山市内に製造機を設置する準備を進めている。自社工場は足元では福島復興需要への供給であるが、東北全体への供給を念頭においており、今回の松山市内の製造拠点も四国全域への供給をお願いすることとしており、この製造のエリア制も今後全国展開して行くことになる。

このように「製造」と「販売」を、新たに設立される工法協会をエンジンとしてエリア毎に構築しているのが現在であるが、東北、甲信越そして四国で実際にこれらのスキームが動き出すとしているのである。これらが実際に動き出せば、我々GPは多少息つく時間を作れることになると思っております。何とか早急に確立していきたいと考えている。

さて、次に「開発」であるが、ここがセルドロン事業の肝になるのは今さら申し上げるまでもないこと。現在進行中の京都大学 大学院 工学研究科の木村研究室と青木あすなろ建設様との共同研究も5月末にて第一ステップは終了することになるが、当然、第二ステップへと継承していく予定である。まずは第一ステップの成果と、以降の可能性をメディアを通じて公開したいと考えており、こちらも次回号でお伝え出来ればと考えている。

また、セルドロンの持つ特徴を最大限に活かした新たな「開発」も、富山大学と開始しており、既に3月末で特許申請した技術もある。セルドロンを固液混合体に添加し攪拌すると、液体がたちまち姿を消してしまうが、その液体は蒸発してなくなってしまうのではなく、セルドロンが抱え込んでいる、つまりまだ個体の中に留まっていることに着目した新しい取り組である。こちらもおいおいご紹介して行ければと考えている。

と、セルドロン事業もここにきて大きく動き出してきました。やらなければいけない事は足元も、半歩先も、一歩先も、十歩先も沢山ありますが、やる時やらなければ前に進めないの、一個づつやっていきましょう。

# 浚渫工事現場を勝手に見学3

前回まで浚渫の状況をお伝えしましたが、この川には多くの生物がいて、地域の方々が大切に生き物の住める環境を生み出しておりました。



この多くの生き物たちと人が共存するために「浚渫」したとしても生き物の住み家を作れる環境は残してあげないといけません。もし、セメントのような固化処理をして再掘削不可能になったら、生き物は住めません。



セルドロンを使用することにより、より自然に近い土のまま重機が入れるような土の強度に改質しました。今回は6トンのセルドロンを利用しバックホーが浚渫土の上を走れるようになりました。工事が完了してしまえば、改質した部分は水の中に戻り、多くの生物の寢床に戻ります。



# 「残コン技術フォーラム設立」

4月14日(金)「GNZ公開ワークショップ 東京」がクリエクロス神田で開催されました。プログラムの中で「残コン技術フォーラム設立」が発表され、その中でセルドロン技術の発表を行いました。

建設業や圧送業、生コン業、新聞社など残コンにかかわる業種の方30名以上いる中、セルドロンの実績を紹介させていただきました。

まだまだ多くの方に知っていただくことが必要であり、残コンは今後も改善が必要な問題です。



# 残コン用途NETIS申請開始

現在、「セルドロンCを用いた生コンクリート処理」という名称でNETIS申請をしているが、登録完了までもうしばらく時間がかかる見込みです。

各種試験においては、万全の結果が出ている。がしかし既存方法と比較して、優れている部分を説明する必要がある。残コンには表立った既存工法が見当たらない。

残コンが現場で発生していないことになっているのが現状でどのように処理されているか既存工法はありません。今回、NETIS登録が完了すれば、残コン業界に大きな風が吹くことになるだろう。

# キム・ギヨンのコラムコーナー

韓国のアルバイト事情

今回のコラムで話したい主題は韓国のアルバイト問題点です。

韓国と日本の物価は最近似たような水準です。

最低賃金は東京が923円で韓国は6470ウォン(618円)くらいで約50%の差があります。

日本は交通費支給がありませんが、韓国は交通費支給は殆どないし最低賃金もくれない店も多いので実際は50%以上差があります。

給料以外にも休みなど基本的な権利もないバイトも多いです。

韓国のバイトは殆ど学生だから待遇が悪い場合が多いです。

最低賃金の問題は毎年50円くらい引き上げられますけどバイトを目下の人扱いが多いからこういう問題があると思います。

韓国のバイトも日本同じくらいの水準になったら良いと思います。

\*原稿の原文そのままと掲載しております。